創刊のことば

手島　孝
（総合管理学会名誉会長・熊本県立大学学長）

名づけてアドミニストレーションという。

まず，あえてこのいささかバタくさい誌名をえらぶことで，われわれの研究・教育の基本的スタンスを示したい。

人，あるいは，フランス人ならずとも，外来語，しかも英語というので拒絶反応があるかもしれない。また，カタカナ，しかも10字に余る単語は，日本語になじまぬ，いや，日本語ではないと目くじら立てるナショナリスト（こちらは，カタカナでも，まあ7字だが）もいよう。

このような偏狭・固陋をこそ，本誌は断乎排する。

自国の言葉と文化を重んじ愛しむことにおいて，われわれはゆめ人後に落ちるものではない。この自負と自信の上に立って，闊達・自在にひろく視野を世界に開こうとするのである。そこから，誌名もおのずから生まれた。

近時，追いつき追い越し，もはや他国に学ぶべきものはなくなったとして，日本自前の○○学の建設こそ急務とする声が聞かれ始めた。これが，本誌と通底するコスモポリタニズムの一環として己が足下をしかと見直し見定めようとするのならばいざ知らず，もしそれ，かの戦中の皇国○○学を想い起こさせる夜郎自大の視野狭窄であるならば，それは知の退行・頽廃以外の何ものでもありえまい。われわれの誌名は，そのようないわば縮み志向への根元的批判を含意している。

つぎに，そしてより実質的に，この誌名によって初めて，われわれの研究・教育の新たな地平がもっとも的確に一望の中に収められよう。

公共行政（パブリック・アドミニストレーション）と企業経営（ビジネス・

アドミニストレーション）の一般理論としてのアドミニストレーション。いや，むしろそれらの統合原理としてのアドミニストレーション。これこそが，新発足のわが総合管理学部が照準を合わせる専門独立の１学問分科（プロフェッショナルな１ディシプリン）にほかならない。

ビューロクラシーが公私に共通の組織現象と確認されてすでに久しく，アメリカではシティ・マネジャーがつとに大きな実績をあげ，近くはコーポレート・カバナンスについて多くが語られるなど，アドミニストレーションの一元性を例示・実証する徴憑にはこと欠かない。また，行政学から出発し，経営学，一般管理学へと自己展開を遂げたノーベル賞受賞学者ハーバート・Ａ・サイモンの存在も，われわれにとって大いなる指針であり鼓舞である。

公共マインドと経営マインドの融合・調和・統一を通してのみ，来るべき世紀の展望はひらけるであろう。本誌，そしてわが総合管理学部がそのさきがけとなることを，われわれはこの誌名に託して期する。

願わくは，われわれ自らの奮励努力と相俟ち，幸いにしてアドミニストレーションが専門誌としても，独立の学問分科としても，学界に確固たる地歩を占めるに至らんことを。